

## 「令和4年秋 植本祭」実績報告書

### 1. 開催概要

#### (1) 日時

##### 第1回

令和4年10月19日（水）18時00分～19時30分

参加人数: 8名（4名ずつ2班に分かれて実施）

##### 第2回

令和4年10月29日（土）13時00分～14時30分

参加人数: 4名

#### (2) 場所

UDCBK オープンスペース

#### (3) 内容

##### ア. チェックイン

初めに、みなくさまちライブラリーの意義やビジョン（本を通じて、まちなかに賑わいやつながりを生み出していく）をUDCBKより説明したのち、企画運営側（立命館大学学生および市民有志、UDCBKスタッフ）を含め、参加の経緯などとともに自己紹介を行った。



##### イ. 第1部（40分程度）

市民有志の方と協力しながらプログラムを進めていった。

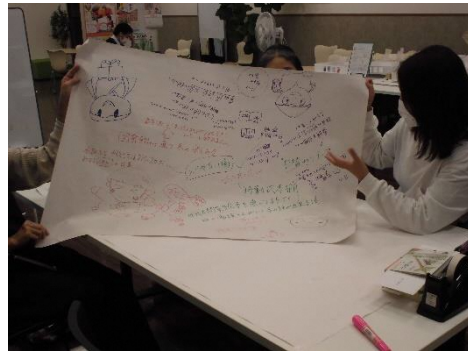
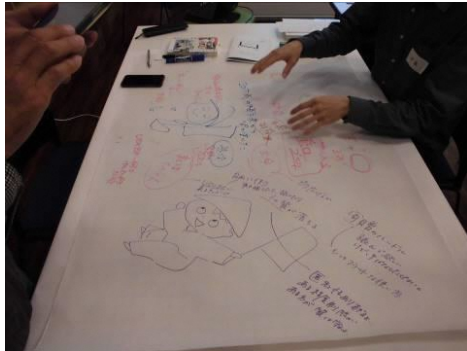
第1部では、参加者が持ち寄った書籍について、持参者がおすすめの点や読んでほしい内容をカードに記載し、紹介した。その後、他の参加者とともに、その本について自由に話すブックトークを行った。



#### ウ. 第2部 (40分程度)

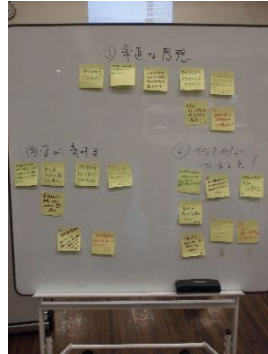
ワールドカフェ形式(話す相手を固定しない話し合いの手法)も取り入れ、テーマに沿って、参加者同士で自由に意見やアイデアを出し合う時間とした。

テーマは、「みなくさまちライブラリーでやってみたいこと」、「こんなふうに運用したい」、「まちライブラリーの未来」といった内容で、参加者が要望ではなく、自らのアクションとしてディスカッションし、模造紙にまとめて全体に向けて発表した。



#### エ. チェックアウト

最後に全体を通して、参加者各自が1. 率直な感想、2. 気づき・学び、3. やってみたいこと という3点を付箋に書いて全体で共有した。



## 2. まとめ

新型コロナウイルス感染症による中断ののち、試行的に行った当イベントであったが、参加者からは本を使ったイベントを実施したことに対する好評な意見が見受けられた。

また、まちライブラリーのスペースの利活用については、引き続き、植本祭を開催し、更なる参加者の促進を図ることのほか、大学・図書館や他の催事・活動との連携を行うことなどが提案された。

### ア. 参加した感想など

- 今回のイベントをきっかけにお話しできた方が多くて楽しかった。
- 普段苦手意識のあるジャンルも読んだ方の話を通すと興味が出て読みたくなった。
- 本好きな人とお話しをするのはいつも楽しい。
- 好きな本と「思い」を知れて良かった。
- 普段手に取らない本について知ることができた。
- 本書紹介を多人数でできると良いと感じた。
- 本を読んで気付くことが多くあるのでまた仕事以外の本も読んでみようと思った。
- 年齢関係なくお話しできる本の力はすごい。
- 本好きな人の熱意を感じ、これからは楽しみ。
- 本でつながるまちづくりにワクワクしている。
- 本をきっかけにつながることも多い。
- まずはスタートすることが大切だと思った。
- 「まちづくり」を本気で考えている人がいることを知った。
- 人と人がつながる場所にするためには、多様な人の参加が必要だと思った。
- UDCBK を初めて訪れたが、こんな場所だったのかと知れてよかった。
- UDCBK を知ってもらうことが大切。
- UDCBK の活動内容の見せ方と同じ問題があると感じた（何をしているか分かりづらい）。

### イ. 参加者から出された、まちライブラリーの利活用に関する主な意見・アイデア等

- 自分の周りの人たちにまちライブラリーの存在を知らせる。
- オープンスペースでできそうな企画を考える。
- 外で活動してみる。
- 太陽の下でまちライブラリーを開催する。
- 公共空間を活用した他者との連携によるイベントの実施。
- 沢山のひとと植本祭を楽しみたい。
- 本を使ったイベントを実施する（読み聞かせなど）

- 東山道記念公園での場づくり。
- みなくさまちライブラリー in BKC（立命館大学 BKC 内での開設）。
- 本の紹介者とながれるような仕組みの構築。
- 図書館のビブリオバトルとの合同イベントを行う。
- 絵本を大人にも広げる活動をまちライブラリーと連携して実施する。

### 3. 今後の展望

今回、参加者から提案された、屋外でのイベントや公民連携などのアイデアは、UDCBK が都市デザイン連携プロジェクトにおいて推進している南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり、公民連携空間の利用促進にも通じる部分がある。また、大学、学生とのより一層の連携を進める意見も出されたが、大学生が住むまちプロジェクトとしても新たな展開の可能性が感じられた。

これまでは立命館大学と UDCBK が企画運営の中心として活動を実施してきたが、この度、市民有志の方がイベントの企画立案や当日のファシリテーターとしても参画していただき、今後の市民主体の運営への架け橋とすることもできたように思われる。

一方で、まちライブラリーのみならず UDCBK 自体の活動についても、今回のイベントに参加して初めて知ったという意見もあったが、今回の参加者の感想からは、本を通じた活動が都市デザイン・まちづくりへの参加のきっかけになり得るように思われた。

今回のイベントで生まれたつながりを生かして、みなくさまちライブラリーを、みんなが参画できる都市デザイン・まちづくりの一つの仕組みとして定着することを目指すような方向性で考えていきたい。